

編集後記

国立国語研究所第4期基幹型プロジェクト「実証的な理論・対照言語学の推進」(2022-2027年度)のプロジェクトリーダーの浅原と申します。本プロジェクトは研究系理論・対照グループのサブプロジェクトの取りまとめを行うほか、二つを取組を行います。

一つ目は理論・対照グループのイベントの開催です。国語研第3期においては、理論・対照研究領域による『Prosody and Grammar Festa』を神戸大学と共同で開催しておりました。同イベントを引き継いで、本イベント『Evidence-based Linguistics Workshop』を企画しました。新体制においてどのようなイベントを開催するかを検討し、研究所内の共同研究プロジェクトに参画されている共同研究員のみならず、どなたでも発表申込が可能なものとししました。また、ハイブリッド開催のために必要な準備を進めました。

二つ目は言語学のオープンサイエンス化です。近年、内閣府主導のもと、国際動向を踏まえたオープンサイエンス推進のための方策が検討され、様々な国内施策が進められています。言語学の分野では、紙の論文や書籍の出版が業績として認められた時代が長く、従来の業績を前提とした学術情報流通システムが強固であるために、研究成果物の共有化が進んでいない状況にあります。言語系の学会においては、制約の厳しい規定・著作権譲渡事項を設定していることにより、プレプリントサーバ・学位論文なども含めて二次投稿に対する制限を課しています。本ワークショップでも、17件の発表申込のうち発表論文の提出が2件のみでした。本ワークショップの発表論文集は、著作者に不利益のないように「著作権を原著者が保持したまま、Creative Commons ライセンスにより文献を公開する」という施策をとり、著作権譲渡による二次投稿の制限を回避します。言語系学会の各規定に対する問題提起を行うとともに、働きかけを進めていきたいと思ひます。

浅原正幸（国立国語研究所）